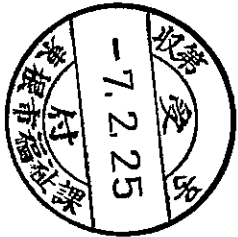


自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：ニチイケアセンター神町
作成日：2024 年 12 月 17 日
(事業所としての自己評価日)

作成者： 原田 由美
運営推進会議における評価実施日： 2025年 2月 20 日



凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※ツリーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A	ニチイ学館の経営理念と職員全員で作成したグループホームの理念を事務所と各ユニットのリンゴに提示している。全職員が理念を理解して業務に取り組んでいる。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	C	今年度は、ボランテイアの受け入れを再開する事ができ利用者もボランテイアの時間を楽しみ、毎週お礼状が送られておりました。事業所として、毎年町内会の清掃活動に管理者や職員が参加しており地域の方々とニチイさんで声掛けして頂く機会が増えました。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価面への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A	今年度は、以前のように自拠点開催で感状対策を行い通常通りの集合型の運営推進会議を開催し地域の訪問、話聴、意見などをお伺いして今後のサービス向上に反映させている。		
4	市町村との連携	市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B	運営推進会議には、市役所、包括支援センター職員からも参加していただき、現状報告や今後の取り組みを説明している。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A	身体拘束禁止適正化検討委員会を設置し(1年4回)開催し検討内容を全スタッフに周知徹底を行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	A	受入金を設置し研修を行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	A	高齢者虐待防止マニュアルに基づき研修(年2回)を行い、職員同士お互いの同行を確認しながら虐待防止に努めている。	A	マニュアルに基づいた研修を行い、事業所全体で虐待防止について知識と理解を深め虐待防止に努めている。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	成年後見制度については、利用している利用者もいる為、研修等で学ぶ機会を設けており日常生活自立支援事業研修も併せて行っている。		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A	契約 解約 改定は、管理者が行っている。不明な点が無いか必ずお聞きし、納得していただき契約を行っている。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A	当社は独自の顧客満足度調査に基づき、業務ミーティング時に職員に結果を報告し今後の運営に役立てている。	A	顧客満足度調査を実施し、利用者や家族等から聞き取り問題があった時には、職員と協力のもと意見交換を行い運営に活かしている。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	申し送りノートへの記載や業務ミーティングで意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。また、日常業務においても個人の意見に耳を傾け、活かしていくように努めている。		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B	キャリアアップ制度(自己評価、面接試験、筆記試験)を実施している。管理者と職員の意志疎通を図り、介護技術や意識の向上を図っている。結果として研修がスタッフなどの条件整備を行っている。	B	キャリアアップ制度を活用し、職員の意識向上に努めている。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	業務ミーティングの中で年間計画に沿った項目で研修を実施している。外部研修は、zoomでの研修や集合型の研修に管理者やケアマネが参加しているが、職員に外部研修の案内を提示するも希望者がいなかった。	B	職員によって、研修に参加出来ていないが全職員にも研修参加の重要性を理解してもらい参加を促す必要がある。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C	山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に参加しており、今年度も11月にオンラインミーティング情報交換会に職員が参加し情報交換を行った。		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場にいかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B	ご利用前に、自宅 入院先 他施設への訪問し面談を行っている。ご本人様の話を傾聴し、不安や要望等を受け止めるように努めている。		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B	コロナの感染状況を見ながら、感染対策を行い玄関先での短時間の面会とオンライン面会を実施しており馴染みの関係が途切れないように支援している。施設の玄関先には、毎月の施設での様子を写真に収め掲示している。		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

事業所名：ニチイケアセンター神町

作成者：原田 由美

作成日：2024 年 12 月 17 日

運営推進会議における評価実施日：2025年2月20 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	外部評価	外部評価
E. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A	希望や意向を率直に伝えられない利用者もいるので、日常生活での発言や行動をもとに把握に努めている。ご家族様の意見もお聞きしながら、本人本位の暮らし方が出来るように支援している。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B	利用者個々に、担当職員を配置し計画作成担当者が必要職員から情報を得ている。また、必要に応じてご家族様から情報を得て計画作成に役立てている。	A	利用者本人のニーズや状況に互を傾け、必要に応じて家族からの情報を得る事により、利用者家族の意向を汲み取って計画作成している。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A	日々の状況を個別記録に記入するとともに、状況の変化や気づいたことは、業務管理日報、申し送りシートに記入し全職員で共有し、必要に応じて計画書の見直しを行っている。	A	利用者の日々の体調や言動に変化がみられた際には記録に残し職員の間で共有し必要に応じてラウンの見直しやケアの実践に活かしている。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	B	紹介先の介護支援専門員の方や相談員の方ご本人、御家族様から詳しくお話を伺った時点で本当にグループホームがふさわしいのかを見極め必要であれば他のサービスの利用の提案を行っている。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	B	日々の散歩や地域の催し物に参加希望の利用者をお連れして楽しんでもらう事ができた。外出を希望されない利用者には、施設内でのレクリエーションを通して楽しんでもらえるよう支援している。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	協力医の往診(内科)体調に変化が与られた際には、その都度協力医に連絡し指示を仰いでいる。また、協力医以外のかかりつけ医を希望されている利用者には、ご家族様と連携しながら受診して頂いている。		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	医療連携室を通して、病棟の看護師から話を伺う機会を作っていたき情報を得ている。また、かかりつけ医にも、その都度入院中の様子を報告している。	A	病院の医療連携室やかかりつけ医との連携がよく出来ている。
23	重症化や終末期に向けた方針の共有と支援	重症化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B	入所時に、重症化や終末期に対する施設の方針を説明している。看護師不在の施設の為、照会以外の医療行為が必要となった場合は適切な施設へ紹介する旨を入居前に説明している。	B	看護師不在であるが、入居前に重症化や終末期に対する施設の方針や医療行為等に関する説明が出来ている。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的にを行い、実践力を身に付けている	B	緊急時のマニュアルを作成している。ユニット内に、利用者の容態急変時の連絡ルートが記載されているフリップを置き、確認することなく迅速な対応に努めている。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B	年2回避難訓練を実施。11月の避難訓練は、消防署から施設の消防設備の説明を受け、施設3階の非常口から美園に出て避難経路の確認を行った。施設職員と一緒に民生委員や社協の職員からも参加して頂いた。	B	避難訓練に積極的に取り組み、運営推進会議でも訓練の課題等について活発に意見が交わされていた。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

事業所名：ニチイケアセンター神町

作成者： 原田 由美

作成日： 2024 年 12 月 17 日

運営推進会議における評価実施日： 2025年 2月 20 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	一人ひとりの性格や、生活歴、認知症の症状を理解し、それに合わせた声掛けや対応を行うようにしている。	B	一人ひとりの性格や生活歴の理解に努めプライバシーに配慮した声掛けを行っている。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をしてのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B	利用者に希望を聞きながら支援しているが希望をおっしやらない方には、ご本人のその日の状態を見ながら、こちらから家事やレク活動行事への参加を提案している。参加への拒否がある際には無理強いせず、ご本人様のペースで過ごせるように配慮している。		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	B	ご利用前に、ご本人様の嗜好をお伺いしながら希望に合わせたメニューを取り入れたり季節を感じていただくような食材を使った食事を取り入れて行っている。食後は、利用者と職員が一緒に片付けを行っている。	A	広報紙等の写真を見る際や行事にあった装飾しそうな食事を提供していると思います。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A	毎日の介護記録に食事量や水分摂取量を記入し、食事や水分量が少ない時には、業務管理日誌のその旨記載し、申し送りを行い利用者一人ひとりにとって十分な食事量、水分量が摂れるように配慮している。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	毎食後、口腔ケアを行っている。ご自分で出来る方には無掛けにて行っていたり、介助が必要な利用者には付き添い、必要な所のみ介助し出来ることは自力で行えるように援助している。歯科の診療や治療が必要な利用者には、訪問歯科案内を行っている。	A	毎食後の口腔ケアを丁寧に行い、清潔保持に努めている。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のペース、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A	排泄チェックを行い、排泄リズムをつかみトイレ誘導を行っている。また、排泄のリズムがつかみにくい利用者については、排泄のサインがわかりやすい見守りし、出来るだけトイレで排泄できるように誘導している。	A	一人ひとりの排泄ペースを理解し、個々に応じた支援をおこなっており、トイレでの排泄や排泄の自立に向け利用者の排泄リズムに配慮している。
32	入浴を楽しむことのできる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	B	個人浴槽に入浴出来る方、ご本人様、御家族様の希望に沿って入浴していただいている。機械浴が必要な利用者様に関しては、同じ建物内の小規模多機能型居宅介護事業所の機械浴を利用可能。		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	一人ひとりの状態や生活習慣に合わせて、居室で休息の時間を取り入れれている。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B	スタッフ全員が一人ひとりの服用している薬の目的や副作用について学習しながら理解している。薬のケースには本人様ご自身の薬の服用スケジュールを貼って確認し、服薬確認もしている。服薬後の状態観察は注意深く行っている。	B	薬の内容を理解し、服薬忘れや誤薬のないような体制を整備している。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B	入居前の面談で、ご本人、御家族から得た情報を共有し、一人ひとりが役割や楽しみを持って過ごせる様に配慮している。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	C	数名の利用者が、自宅より家族と過ごす事が出来た。外泊するにあたり、感染予防の話をさせていた。また家族から協力得て外出支援を行った。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	C	お小遣いは、施設のお金庫で預かり貯蓄や生活雑貨などの購入に使っている。お小遣い帳で管理し、御家族様から確認していただいている。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	御家族様からの電話があった時には、取り次ぎ直接話しをしてもっている。また、届いた手紙は本人にお渡しし、必要であれば職員が読むのを手伝っている。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内には一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	利用者の皆さんと季節感あふれる作品を作成したり、ペンダや廊下に展示している。また、室内で快適に過ごす事が出来るように定期的に換気を行い室温、エアコン、加湿器の管理を行っている。	A	リビングに利用者が作成した装飾を飾ったりと季節感を意識した空間作りをしている。また、空調管理も適切に行っている。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

事業所名：ニチイケアセンター神町

作成者：原田 由美

作成日：2024 年 12 月 17 日

運営推進会議における評価実施日：2025年2月20 日

（事業所としての自己評価日）

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	自己評価	外部評価
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	B	利用者に希望を聞きながら支援しているが、希望をおっしゃれない方には本人のその日の状態を見ながら、こちらから家事やレク活動、行事への参加を提案している。参加への拒否がある際には無理強いせずに、ご本人様のペースで過ごせるように配慮している。		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができる	B	入居前に、ご本人や御家族様に面談を行い会話を通して把握に努めている。また、紹介先の介護支援専門員の方や病院の相談員の方々から情報を得ている。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができる	A	協力医の生診（内科）体調に変化が与えられた際には、その程度協力医に連絡し指示を仰いでいる。また、協力医以外のかかりつけ医を希望されている利用者には、ご家族様と連携しながら変更して頂いている。	A	協力医に情報共有し、利用者の体調の変化を注意し支援を行っている。
43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A	入居前の面談で自宅での生活の様子をお聞きし、なるべくその方のペースに合わせて生活出来るように支援させて頂いている。		
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができる	B	自宅で使用していたベッドや家具などを自室に持ち込んでもらい居心地よく過ごせるように支援している。	A	自宅で使用していた家具などを持ち込み居心地よく過ごせるように支援している。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができている	C	家族様が、自宅で過ごささいとの希望で週末やイベント時の外出を致める方が行い、神前祭りには、希望者をお招きお連れしてカラオケ大会の見学を行いました。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること、できないこと、わかること、わからないことを踏まえた、役割や、楽しみことを行うことができる	A	入居前の面談で、ご本人や御家族様から得た情報を共有し、一人ひとりが役割や楽しみを持つて過ごせるように配慮している。		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができる	B	利用者の関係性を把握し、座の位置を配慮しながら職員が構直し役となり孤立しないように話題を提供するように変換している。	B	広報紙の写真をみると家事手伝いやレク活動に参加したり楽しみを持ちながら過ごしていると感じます。利用者の表情が明るい。
48	総合	本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	D	元自衛官だった利用者と、神町地区で開催された防空見学に行つて地域の方と交流したり、昔留っていた詩時のお仲間が面会に来てくれて一緒に唄ったりは交流が再開され利用者も大変喜んでいました。		
49		本人は、このGHIにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	B	今年度は、さくらんぼツツジ花屋や神町祭り、ポランテシアの訪問など地域の人々との交流が再開する事が出来ました。今後も、感染症対策を見ながら地域との交流を機やし、認知症であつてもほろぼれた地域であつて日々の生活が送れるよう支援して参ります。	A	感染症対策を通つた地域のイベントの参加、地域の人々との交流を積極的に行っている。

総評

今年度は、施設での運営推進会議の開催になりました。施設内の利用者や、職員の姿を構成員の方々から見えて頂きニチイケアセンター神町を知っていただく事が出来たと感じております。会議の中で、構成員からの話を聞かせて頂く中で、利用者や家族が安心して自分らしく過ごしており、常にコミュニケーションを大切にしながら運営している事が感じられるとお言葉を頂きました。また、地区への行事参加や避難訓練を通して積極的に地域に関わろうとする姿勢がみられますと言っていました。今後も、引き続き感染対策を行いながら地域との関わりを持ちながら利用者様が安心して笑顔で過ごせるよう支援してまいります。

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

構成員：施設での日常の様子を見学できる機会を設けたり、情報発信を行い地域に住む様々な方に、知ってもらう事ににより一層充実した施設になるのではないかと思います。感染症や自然災害が発生した時のサービスの継続について、特に避難計画や訓練など今後も継続して行つて行かなければならない事と思います。

次年度は、地域の方々に施設を知って頂けるよう施設の情報発信や地域の行事に参加し、地域に根ざした施設作りに取り組んで行きます。災害対策は、屋夜を問わず利用者が避難できる方法を職員が身につけるとともに地域と協力体制を築き消防署から指導をいただきながら体制作りを行っていきます。

参加者サイン欄

・東根市役所健康福祉部 福祉課 介護保険係	
・東根市地域包括支援センター中央	・家族代表 (ほほえみ・やわらぎ)
・区長・民生委員	・グループホームさくらんぼ (管理者)
氏名の記載は、個人情報となりますので控えさせていただきます。	